

## 欧州におけるグローバル広報の留意点

### —フィンズベリー・グラバー・ヘリングによる講演会を開催—

2022年5月24日

講師：フィンズベリー・グラバー・ヘリング

デボラ・ヘイデン 東京事務所共同代表

ダン・ボグラール マネジング・ディレクター

堀田 慶一 マネジング・ディレクター

経済広報センターは5月24日、「欧州におけるグローバル広報の留意点」と題するオンライン講演会を開催した。世界に20拠点を有する大手PRエージェンシーであるフィンズベリー・グラバー・ヘリングから、パートナーで東京事務所共同代表のデボラ・ヘイデン氏、同マネジング・ディレクターのダン・ボグラール氏、堀田慶一氏が登壇。会員企業広報責任者など約80名が参加した。

冒頭、ヘイデン氏は、グローバルにビジネスを展開する際には、海外のステークホルダーの受け止め方や理解度などを十分に考慮し、丁寧に説明することが肝要だと述べた。

ボグラール氏は、英フィナンシャル・タイムズでの記者の経験から、国際メディアの記者とエージェンシー、企業広報担当者との関係について説明し、企業によっては広報担当者よりもエージェンシーと接することが多かったと述べた。

また、堀田氏は、日本には中長期的に安定した戦略をとる企業が多いが、欧米では、変化の大きいビジネスモデルや戦略をとる企業が多く、変化への対応が重視されていると指摘。専門家人材の流動性が高く経営資源も限られるなか、変化に効率的かつ効果的に対応するためにあらゆる機能を内製化することは合理的ではないため、欧米ではコミュニケーション分野においてエージェンシーの活用が進んでいると説明した。また、企業の社会性への関心の高まりを背景としてESG（環境・社会・ガバナンス）への目線が厳しくなっており、欧州では環境に対する意識が高いが、米国ではそれに加えて人種や人権問題にも焦点が当たりやすいことを指摘した。

以 上

---

一般財団法人

## 経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。